

新潟防災センターを見学して

9月8日(火)に、新潟防災センター様の見学をさせていただき、ありがとうございました。自然災害、特に水害にそなえるまちづくりについて学習を進めていく中で、豪雨体験をさせていただいたことで、豪雨や水害の実際や恐ろしさについて、実感を伴って学ぶことができました。今回の体験から、多くの子どもたちが「関川村の備えは大丈夫かな?」「水害に備えて自分たちにできることはないかな?」と、新たな疑問をもち、次の学習につなげていくことができました。



お忙しい中、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

～子どもたちの感想・振り返り～

先生がアメニティ号の外から声をかけてきた時、雨の音でよく声が聞こえませんでした。だんだん雨が激しくなると、自分の声も聞こえなくなって、雨ってすごいなあと思いました。こんなに雨が降ったら、家が崩れたりするんじゃないかと思うと、怖くなりました。水害や大雨にふだんからそなえをしておくことが大切だと思いました。

防災センターで体験した180mmの雨よりも、7月に女川で降った雨は少し弱かったけど、もしあの時に180mmの雨が降っていたら、水害になっていたかかもしれないと思いました。少しの時間でも、大雨が降ると水害のもとになるかもしれないことがわかりました。

雨を体験できる装置に入ってみると、はじめの30mmの時は長靴の外側が少しぬれるくらいだったけど、120mm、180mmくらいになると、傘をさしていても長靴の中まで水が入ってきて、ぬれてしまいました。いつもより強い雨を体験して、こんなに強い雨がずっと続いていたら川が氾濫したり、土砂崩れが起きたりするかもしれないから、事前にハザードマップや防災グッズなどを用意しておいた方がよいと思いました。

今日の校外学習で印象に残ったことは、災害体験です。180mmの雨を体験しました。水害は、人の命を簡単にうばえるものなんだと思いました。日ごろからひなん場所のルートやひなん用品などの準備をしておいた方がいいと思いました。水害以外にも、火や雪にも気を付けていきたいと思います。自然災害は、いつ起きるかわからないところが怖いと思いました。